

シラバス

1年次

教育課程表進度表

1. 基礎分野

科学的思考の基盤

自然科学Ⅰ(生物学)

自然科学Ⅱ(物理学・化学)

情報科学Ⅰ(情報処理の方法)

論理的思考

LTD学習法

人間と生活・社会の理解

心理学

人間関係論

パフォーマンス論

生活科学

運動と健康

2. 専門基礎分野

人体の構造と機能

解剖生理学Ⅰ(消化器・内分泌)

解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)

解剖生理学Ⅲ(脳・神経・感覚器)

解剖生理学Ⅳ(腎・泌尿器・生殖器)

看護形態機能学

生化学

疾病の成り立ちと回復の促進

薬理学

病理学

感染症と微生物

疾病治療論Ⅰ(腎・泌尿器・内分泌・代謝アレルギー)

疾病治療論Ⅱ(脳・神経・運動・感覚器)

疾病治療論Ⅲ(呼吸器・循環器・血液・造血器)

疾病治療論Ⅳ(消化器・乳腺・呼吸器)

臨床治療論

看護のための疾病論

臨床栄養学

3. 専門分野

基礎看護学

看護学概論

看護理論

看護過程

ヘルスアセスメント

共通基本技術Ⅰ(技術論・安全)

共通基本技術Ⅱ(観察・バイタルサイン)

生活援助論Ⅰ(環境・活動)

生活援助論Ⅱ(清潔・衣生活)

生活援助論Ⅲ(食事・排泄)

診療の補助技術

地域・在宅看護論

地域と暮らし

成人看護学

成人看護学概論

老年看護学

老年看護学概論

看護の統合と実践

看護マネジメントとキャリア論Ⅰ(看護職キャリア)

臨地実習

基礎看護学実習Ⅰ(療養環境・対象理解・日常生活援助)

地域・在宅看護論実習Ⅰ(地域と暮らし)

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		自然科学Ⅰ(生物学)				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		片山 博和					
授業目的		看護に生かす生物学を学修する。					
到達目標		1)細胞の仕組み働きを理解する。 2)遺伝の仕組みについて理解する。 3)生体内での刺激と反応について理解する。					
授業の概要		本科目「自然科学Ⅰ(生物学)」では、人体の機能や仕組みを修得するために必要な基礎知識に関する講義を行う。 当たり前のように用いられる基本用語の解説から始まり、細胞の仕組みと働き、遺伝の仕組み、生体内での刺激と反応について、図や絵を用いて視覚的に理解できるように解説する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		時政孝行:看護に必要なやりなおし生物・化学(照林社) 適宜プリントを配布する。					
自己学習		講義後に教科書、ノートとプリントを読み返し復習をすること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	基本用語と単位				
		第2回	細胞の仕組みと働き①				
		第3回	細胞の仕組みと働き②				
		第4回	遺伝の仕組み				
		第5回	刺激と反応①				
		第6回	刺激と反応②				
		第7回	総復習				
		第8回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		自然科学Ⅱ(物理学・化学)				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		田村 英久(物理学) 片山 博和(化学)					
授業目的		看護に生かす物理学・化学を学修する。					
到達目標		1) 身体や身体ケアに関する物理学が理解できる。 2) 検査・治療・処置に関する物理学・化学が理解できる。					
授業の概要		看護や日常生活における科学、主に物理学・化学に関する基礎知識を習得する。看護に必要な科学は広範囲で日々進化しているが、それらに柔軟に対応できる下地を形成する。					
成績評価		筆記試験(100%)					
教科書等		平田雅子:「完全版」ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学(学習研究社) 時政孝行:看護に必要なやり直し生物・化学(照林社) 【参考書】高等学校の物理・化学・数学、中学校の理科の教科書					
自己学習							
留意事項(持参品等)		高等学校の物理を未履修でも理解できるように説明しますが、必要に応じて上記の参考書を読み直すことも勧めます。また、日頃から科学に関する各種の報道にも興味を持っておいください。					
授業計画(授業内容)		第1回	ガイダンス(概論、物理学の歴史)				
		第2回	力学① 物体の運動と力・回転【前編】 (概要、物理量の単位、スカラーとベクトル、物体の運動、摩擦力)				
		第3回	力学① 物体の運動と力・回転【後編】 (力の合成・分解、三角関数、運動の法則、力のモーメント、てこの原理)				
		第4回	力学② 仕事とエネルギー (概要、仕事と仕事率、仕事の原理、色々なエネルギーとその変換)				
		第5回	力学③ 運動量 重心と安定性 (運動量と力積、運動量保存則、重心と安定性の関係、支持基底面)				
		第6回	熱力学 (概要、様々な種類の熱、物質の三態、熱の移動、風冷実行温度)				
		第7回	圧力 (概要、圧力の各種単位、大気圧、気体の状態方程式、物質質量モル)				
		第8回	中間試験				
		第9回	化学単位				
		第10回	物質の構成				
		第11回	溶液と濃度(溶液・溶質・溶媒、濃度)				
		第12回	化学反応				
		第13回	酸とアルカリ(酸、アルカリ、pH値、対数について)				
		第14回	有機化学				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		情報科学Ⅰ（情報処理の方法）				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		金本 直登					
授業目的		職業人として情報機器の使用ルールと基本操作について学習する。					
到達目標		WindowsとOfficeソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作ができる。 ファイルのコピー・移動・削除、フォルダの管理と整理ができる。 プレゼンテーションの基本（構成づくり、視覚資料づくり、伝え方の工夫）を学習し、聞き手に説得力のある事実やデータを盛り込んだ情報の発表。 情報収集したデータについてExcelを利用して表やグラフにしたり、一次資料（自分で調査したデータ）・二次資料（公表している情報）の作成の方法を知る。					
授業の概要		問題を解きながら、パソコンの基本操作を身に付ける。 伝えたい内容が明確に表現できるようなプレゼンテーションの準備ができる。					
成績評価		技能試験・講義期間中の提出物、総合的なプレゼンテーション技術					
教科書等		中山和弘：看護情報学（医学書院）					
自己学習		作業スピードを上げるために、タイピングソフト等を利用して、文字入力の練習を行う。 日頃よりニュースや新聞、書籍、雑誌等を読んで、自分がどう感じるのかを意識しながらプレゼンテーションの内容をまとめられるように情報収集を行う。 日頃から積極的に人前に出て発言をしたり、司会や発表している人を観察し良い姿を参考に真似てみるよう心がける。					
留意事項（持参品等）		特になし					
授業計画（授業内容）		第1回	Word（13章）				
		第2回	課題作成				
		第3回	Excel（第12章）				
		第4～8回	Power Point（14章）				
		文字と画像					
		動画とアニメーション、総合演習					
		課題作成、発表					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		論理的思考				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		谷川 充美					
授業目的		論理的思考の基礎である人間の思考活動における推理作用の特徴や思考活動と言語活動の関係について理解し、事象に対する判断力、思考力、文章表現力を養う。					
到達目標		1)論理的に考える必要性がわかる。 2)論理的に思考・推理・解釈できる。 3)論理的な文章表現ができる。					
授業の概要		現実のさまざまな出来事を観察、分析、分類し、それらを比較しながら、自分の意見を確認してゆくことを学ぶ。さらに自分のその意見が他者に理解できるように表現することを身につける。そのようにして論理的思考及びその言語的表現について学び、思考の矛盾や妥当性を判断して処理する能力を養う。 【すべての講義は演習にて行う。】					
成績評価		提出物(50%)および終講試験(50%)の成果を総合的に判定する					
教科書等		※授業資料、参考文献は、授業時に適宜紹介します。					
自己学習		論理的思考の意味と実践(論理モデルやフレームワークなど)に関するWebサイトや書籍を閲覧するなど、主体的にさまざまな情報に触れておくこと。					
留意事項(持参品等)		人間を理解するさまざまな観点に関心を持つ。それは、「いかに自己を理解することができるか」という問題である。そして自分の考えていることを他者に理解してもらうにはどのように表現したらいいのかを常に考える姿勢を持つ。まず、こうした問題意識をもって受講する。日頃から、読む・書くことを意識して行う。					
授業計画(授業内容)		第1回	ガイダンス・論理的思考の理解(論理の意味と必要性の理解)				
		第2回	論理学の原理と概念(論理の記号化と規則の理解)				
		第3回	推論の種類と実際(演繹推論と帰納推論の理解と実践)				
		第4回	論理的思考に基づく人間観①(ゼロベース思考・MECEを用いた思考の可視化)				
		第5回	論理的思考に基づく人間観②(ロジックツリーを用いた原因分析)				
		第6回	論理的思考に基づく人間観③(ピラミッドストラクチャーを用いた問題解決)				
		第7回	論理的思考に基づく人間観④(複数のフレームワークの活用と問題解決)				
		第8回	論理的思考に基づく他者理解①(フレームワークを用いた他者理解)				
		第9回	論理的思考に基づく他者理解②(フレームワークを用いた分析と解釈)				
		第10回	論理的思考に基づく他者理解③(フレームワークを用いた問題解決)				
		第11回	推論の基礎①(クリティカルシンキングを用いた文章の批判的吟味)				
		第12回	推論の基礎②(論理的な文章に必要とされる構成と表現の理解)				
		第13回	推論の実践①(論理的記述法(演繹法)を用いた文章の作成)				
		第14回	推論の実践②(論理的記述法(仮説演繹法)を用いた文章の作成)				
		第15回	まとめと筆記試験(論理的思考の理解度と定着度の評価)				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		LTD学習法				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		今岡 みどり					
授業目的		支援対象者やその家族、他職種と協同して問題解決できる実践力は看護職に不可欠である。 この3年間で仲間とともに着実に成長していくための科学的思考力と汎用的能力の基盤を体得する。 本科目では、協同学習の理論と技法に基づき、LTDを体験的に学習する。					
到達目標		1) 3年間の学校生活の見通しを持ち、主体的に学ぶことができる。 2) 協同的なグループワークができる。 3) 論理的な言語技術を獲得することができる(聴く・話す・読む・書く)。 4) LTDを体験的に理解し、自分の生活に活かすことができる。 5) 学生同士のつながりを深めることができる。					
授業の概要		協同学習の理論と技法に基づき、ペアやグループを効果的に使用した活動性の高い授業を展開する。 LTDによる文章読解を体験的に理解することにより、LTDを「討論」や「文章作成」にも活用できるようにする。					
成績評価		授業への参加度(50%)、提出物(50%)					
教科書等		安永悟:授業を活性化するLTD(医学書院・2019)					
自己学習		テキストにできるだけ目を通しておく。 次に示すページは、必ず読んで、大事だと思うところに線を引いておく(テキストp.136, p.147-p.151)。					
留意事項(持参品等)		「協同の学習観」(テキストp.50)に則った授業を行う。 主体的に学ぶことで、協同学習の効果を実感してほしい。					
授業計画(授業内容)		第1回	導入・学びの場づくり				
		第2回	これからの教育・協同学習の考え方				
		第3回	LTD(概要とステップ理解)				
		第4回	分割型LTD(導入)				
		第5回	分割型LTD(step4まで)				
		第6回	分割型LTD(step5から)				
		第7回	LTDを活用した討論				
		第8回	LTDを活用した文章作成				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		心理学				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		石原 金由					
授業目的		心理学とは人間の心と行動の様々な現象を実証的に探究する学問である。 本科目では、心理学とは何か、心理的発達、感覚・知覚、認知、記憶、言語・知能、動機づけ、学習、性格など心理学研究の成果に基づいた基本的理論を学修するのみならず、それらを通して客観的・論理的なものの見方を修得して欲しい。					
到達目標		1) 心理学の基本的な知識について理解できる。 2) 日常生活の人間行動について、心理学と結びつけて理解できる。 3) 客観的・論理的なものの見方を修得できる。 4) 看護における心理学について理解できる。					
授業の概要		人間の行動を理解したり、行動の評価をするためには、心理学に基づいて行うことが必要である。学習、発達、健康などを心理学で捉えることによって、対処方法を見出し理論的に理解する。					
成績評価		課題(30%)，定期試験(70%)					
教科書等		山村豊/高橋一公:心理学(医学書院)					
自己学習		授業後に復習をする。					
留意事項(持参品等)		テキスト、ノート					
授業計画(授業内容)		第1回	心理学とは				
		第2回	医療・看護と心理学				
		第3回	行動の生物的背景				
		第4回	学習Ⅰ(条件づけ, 知覚運動学習)				
		第5回	学習Ⅱ(認知的学習, 応用)				
		第6回	記憶Ⅰ(感覚記憶, 短期記憶, 作動記憶)				
		第7回	記憶Ⅱ(長期記憶と忘却)				
		第8回	動機づけ				
		第9回	適応とストレス				
		第10回	発達Ⅰ(認知・思考の発達)				
		第11回	発達Ⅱ(青年期と同一性)				
		第12回	発達Ⅲ(青年期と同一性)				
		第13回	感覚と知覚				
		第14回	医療現場での対人関係				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		人間関係論				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		松村 枝里					
授業目的		本講義の目的は、良好な人間関係をつくるための知識と技術を学ぶことで、保健医療分野の専門職としての基本的な態度を醸成することである。患者、家族をはじめ、その他の専門職を理解することで、良好な人間関係を構築できる人材を養成したい。					
到達目標		1) 良好な人間関係づくりのための考え方を理解ができる。 2) 知識で得た人間関係づくりのための知識を実践することができる。 3) 患者・家族の立場を理解し、良好な人間関係づくりのための心構えができる。 4) 他職種連携時に良好な人間関係を保ちながらチームケアを行う心構えができる。 5) 人間関係の調整への責任感を持つことができる。					
授業の概要		良好な人間関係づくりを目指すための考え方や方法について学ぶ。 患者・家族との関係づくりについて学ぶ。 他の専門職間と良好な関係づくりを行い、チームケア実践のための学びを行う。 講義および模擬体験場面を交えながら学ぶ。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		石川ひろの他:人間関係論(医学書院)					
自己学習		随時、指示を行う。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	人間関係の中の自己と他者				
		第2回	対人関係と役割				
		第3回	態度と対人行動				
		第4回	集団と個人				
		第5回	コミュニケーション1				
		第6回	コミュニケーション2				
		第7回	カウンセリングと心理療法				
		第8回	コーチング				
		第9回	アサーティブコミュニケーション				
		第10回	保健医療チームの人間関係1				
		第11回	保健医療チームの人間関係2				
		第12回	患者を支える人間関係1				
		第13回	患者を支える人間関係2				
		第14回	家族を含めた人間関係1 地域をつくる人間関係				
		第15回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		パフォーマンス論				基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		韓 彩路					
授業目的		パフォーマンスによって自己表現と他者理解ができ、相互理解につながることを学び、自分らしく適切な表現方法で実践できる能力を修得する。					
到達目標		1) 日常生活における文化的・社会的実践としてのパフォーマンスについて理解する。 2) パフォーマンスの概要を理解できる。 3) 他者への理解を求めるパフォーマンスができる。 4) 効果的な意思疎通ができるパフォーマンスについて意識して実践できる。					
授業の概要		真似ることから学ぶプロセスを経て自分らしいパフォーマンスを創造する。 そして、他者への説得力のある伝達ができ看護行為としてのパフォーマンスにつながぐことを意識して学習する。					
成績評価		授業態度、演習の評価、筆記試験を総合して評価する。					
教科書等		適宜資料を配布する。					
自己学習		パフォーマンスを通してもたらされる感情や身体感覚の変化に注意を向け味わうこと。					
留意事項(持参品等)		身体を動かすこともあるので、動きやすい服装で参加する。 お互いの自己表現を共有・尊重し合い授業に臨む。					
授業計画(授業内容)		第1回	ガイダンス、パフォーマンスの概要				
		第2回	伝えるパフォーマンス				
		第3回	コミュニケーションワーク(自己表現・他者理解)				
		第4回	日常生活・社会生活の中のパフォーマンス				
		第5回	真似るからオリジナルなパフォーマンスへ				
		第6回	効果的なパフォーマンスの場面の展開				
		第7回	様々な状況下での言語・非言語のパフォーマンスの実践				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		生活科学				基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		客本 牧子					
授業目的		人間生活を客観視し、理論的にとらえ、生活者の立場に立ってより健康で豊かな生活が営めるように援助できる基本的能力を養う。					
到達目標		1. 人間の発達と家庭生活との関連について理解する。 2. 人間の発達と社会生活との関連について理解する。 3. 暮らしと環境及び法律との関連について理解する。 4. 社会人としての基本的マナーを身につけることができる。 5. 医療の場における接遇とコミュニケーションの方法がわかる。					
授業の概要		授業の中で実践を通して理解する。日常の家庭生活に生かしているか、自己評価・他者評価をすることで身につけることを目指す。					
成績評価		定期試験(50%)、実践とレポート(50%)					
教科書等		適宜、配布する。					
自己学習		毎日、学習内容を実践するよう心がける。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～14回 1. 生活科学の概論					
		1) 人間発達と家庭・社会生活					
		2) 暮らし(衣生活、食生活、住生活)と環境、法律					
		2. 生活科学の実践					
		1) 社会人としての基本的マナー					
		・挨拶・笑顔・表情・身だしなみ・態度					
		・言葉遣いと言葉選び					
		・立ち方・お辞儀・座り方・歩き方・手紙・葉書の書き方					
		2) T・P・Oに合わせた言葉遣い					
		・敬語の基礎知識・使い方「やさしい日本語」について					
		・指示と報告、連絡					
		3) 目に見えない人とのコミュニケーション					
		・遠隔手話通話システム HAICU(ハイク)					
		・ロービジョン・ブラインド川柳コンクール					
		・電話の特性理解					
		・電話の受け方・かけ方					
		・メール・LINEを使用したコミュニケーション					
		・メモの書き方・文書の書き方					
				4) 医療の場における接遇とコミュニケーションの方法			
		第15回 試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		運動と健康				基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		久保田千代美					
授業目的		生涯にわたって活用できるスポーツの意義が分かり、健康維持・増進及び疾病の予防・回復のためのレクリエーションや運動の意義の理解ができる。 また、運動・実技の実践を通して、表現力を育成し、他者との交流の中で人間関係の形成と集団指導能力を身につける。					
到達目標		1. 生涯スポーツの意義と大切さがわかる。 2. 健康の保持増進のため、体力の向上を図ることができる。 3. スポーツを通じて、表現能力を身につける。 4. 人間関係の形成と集団指導能力を身につける。					
授業の概要		授業に演習を取り入れ体験学習する。体験学習を通じて、その必要性と具体的な行動を理解する。 集団指導については、健康体操など各自が企画したことをグループ内で発表し評価する。					
成績評価		出席状況・授業態度・授業中の実技評価を総合的に判断する。					
教科書等		適宜、資料を配布する。					
自己学習							
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	身体と体育				
		第2回	体育・スポーツとは				
		第3回	レクリエーションとは				
		第4回	身体運動の必要性				
		第5回	体育の目標と内容				
		第6回	生活習慣病およびフレイル予防				
		第7回	リーダーシップ・メンバーシップ				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		解剖生理学 I				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		内藤 一郎					
授業目的		人体の生命現象のメカニズムを理解するために、からだの構造(解剖学)とその働き(生理学)を関連づけて学ぶことが大切である。授業は講義中心で進めるが、人に教えてもらう勉強だけでは十分な知識を得ることはできない。自ら学び、自ら考え、自ら体験することで、本当に役に立つ知識を得ることができる。					
到達目標		1) 人体構造を機能と関連づけて理解できる。 2) 基本的な解剖学用語を確実に身につけることができる。 3) 人体構造を機能と関連づけて理解できたことを説明できる。					
授業の概要		人体の構造と人体の機能を統合し、人体を系統的に理解できるよう解説する。また、健康な状態と障害のある状態を観察する力や判断力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		坂井建雄他:解剖生理学 人体の構造と機能[1](医学書院) ナーシング・サプリー編集委員会:イメージできる解剖生理学(メディカ出版)					
自己学習		授業前には必ずテキストに目を通すこと。授業後は練習問題などで知識を定着させること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～14回 1.人体の基本構造(第1章)					
		1)人体の体位と区分					
		2.人体の基本単位(第2章)					
		1)人体の成り立ち					
		2)細胞					
		3)組織					
		4)器官					
		5)器官系の概略					
		3.体液と血液(第3章)					
		1)体液					
		2)血液					
		4.血液循環のしくみ(第4章)					
		1)循環器の構造と機能					
		2)循環系					
		3)リンパ系					
		5.排尿・体液調整のしくみ(第6章)					
		1)腎・泌尿器の構造と機能					
		備考		第15回 試験			
この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】大学の教員として、また民間研究機関で実務経験を有する教員が、これまでに経験した教育・研究経験を生かして授業を実施する。							

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		解剖生理学Ⅱ				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		内藤 一郎					
授業目的		人体の生命現象のメカニズムを理解するために、からだの構造(解剖学)とその働き(生理学)を関連づけて学ぶことが大切である。授業は講義中心で進めるが、人に教えてもらう勉強だけでは十分な知識を得ることはできない。自ら学び、自ら考え、自ら体験することで、本当に役に立つ知識を得ることができる。					
到達目標		1)人体構造を機能と関連づけて理解できる。 2)基本的な解剖学用語を確実に身につけることができる。 3)人体構造を機能と関連づけて理解できたことを説明できる。					
授業の概要		人体の構造と人体の機能を統合し、人体を系統的に理解できるよう解説する。また、健康な状態と障害のある状態を観察する力や判断力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		坂井建雄他:解剖生理学 人体の構造と機能[1](医学書院) ナーシング・サプリー編集委員会:イメージできる解剖生理学(メディカ出版)					
自己学習		授業前には必ずテキストに目を通すこと。授業後は練習問題などで知識を定着させること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～14回 1.消化・吸収・代謝のしくみ(第7章)					
		1)消化管の基本構造と機能					
		2)歯・口腔・咽頭の構造と機能					
		3)消化管の構造と機能					
		4)肝臓、胆嚢、膵臓					
		5)栄養素の消化と吸収・代謝					
		6)腹膜					
		2.からだの支持・運動のしくみ(第8章)					
		1)骨					
		2)骨の連結					
		3)骨格筋					
		4)各部の骨格と筋の構造と機能					
		3.恒常性維持のしくみ(第12章)					
		1)非特異的生体防御機構					
		2)特異的生体防御機構					
		3)体温					
		4.呼吸のしくみ(第5章)					
		1)呼吸器の構造 2)呼吸器の機能					
		第15回 試験					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】大学の教員として、また民間研究機関で実務経験を有する教員が、これまでに経験した教育・研究経験を生かして授業を実施する。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		解剖生理学Ⅲ				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		井上 徹					
授業目的		人体の生命現象のメカニズムを理解するために、人体の形態と構造及び機能を理解する。					
到達目標		1) 人体構造を機能と関連づけて理解できる。 2) 基本的な解剖学用語を確実に身につけることができる。 3) 人体構造を機能と関連づけて理解できたことを説明できる。					
授業の概要		人体の構造と人体の機能を統合し、人体を系統的に理解できるよう解説する。また、健康な状態と障害のある状態を観察する力や判断力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		坂井建雄他:解剖生理学 人体の構造と機能[1](医学書院) ナーシング・サプリ編集委員会:イメージできる解剖生理学(メディカ出版)					
自己学習		授業前には必ずテキストに目を通すこと。授業後は練習問題などで知識を定着させること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～15回 1.情報伝達と処理のしくみ(第10章)					
		1)神経組織(構成)					
		2)神経の活動					
		3)神経情報の伝導、伝達					
		4)神経系の概要、発生、区分					
		5)中枢神経系(大脳、間脳)					
		6)中枢神経系(脳幹、脊髄)					
		7)末梢神経系(脳神経、脊髄神経)					
		8)運動(伝導路)					
		9)情動(大脳辺縁系)					
		10) 睡眠、脳波					
		2.情報受容のしくみ(第9章)					
		1)感覚とは?感覚の種類					
		2)特殊感覚(視覚)					
		3)特殊感覚(聴覚、平衡覚)					
		4)一般体性感覚(伝導路)					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】医師として眼科医の業務に携わっている。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		解剖生理学Ⅳ				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		井上 徹					
授業目的		人体の生命現象のメカニズムを理解するために、人体の形態と構造及び機能を理解する。					
到達目標		1) 人体構造を機能と関連づけて理解できる。 2) 基本的な解剖学用語を確実に身につけることができる。 3) 人体構造を機能と関連づけて理解できたことを説明できる。					
授業の概要		人体の構造と人体の機能を統合し、人体を系統的に理解できるよう解説する。また、健康な状態と障害のある状態を観察する力や判断力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		坂井建雄他:解剖生理学 人体の構造と機能[1](医学書院) ナーシング・サプリ編集委員会:イメージできる解剖生理学(メディカ出版)					
自己学習		授業前には必ずテキストに目を通すこと。授業後は練習問題などで知識を定着させること。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～7回 1.内部環境維持・調節のしくみ(第11章)					
		1)自律神経の働き, 役割					
		2)内分泌系の概要					
		3)内分泌系(下垂体)					
		4)内分泌系(甲状腺, 副甲状腺)					
		5)内分泌系(副腎, 膵臓)					
		2.生殖・発生と老化(第13章)					
		1)女性生殖機能と内分泌					
		2)男性生殖機能と内分泌					
		第8回 3.統括・試験					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】医師として眼科医の業務に携わっている。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護形態機能学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		今岡 みどり					
授業目的		看護過程の展開に活かすための人体の構造の理解のしかた、機能のとらえかたについて学ぶ					
到達目標		1) 生命維持と生活行動との関係が理解できる 2) 人体の構造のイメージ化をした上で、生活と身体の構造と機能が理解できる 3) 内部環境の恒常化の維持のためのしくみが理解できる 4) 外部環境の影響による身体の仕組みが理解できる					
授業の概要		前期に習得した人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを学び、看護が必要となった際に、対象の「身体」をどのようにとらえていくべきかを学ぶ。					
成績評価		定期試験					
教科書等		菱沼典子：看護形態機能学－生活行動からみるからだ－第4版（日本看護協会出版会） 【参考書】坂井建雄他：解剖生理学 人体の構造と機能[1]（医学書院）					
自己学習		既習の解剖生理学の知識が活用できるよう復習をする。					
留意事項（持参品等）							
授業計画（授業内容）		第1回	人体の構造のイメージ化				
		第2回	人体の構造のイメージ化（フィジカルアセスメント）				
			看護形態機能学における学び方ガイダンス				
		第3回	生活と身体の構造と機能 テーマ：「食べる」				
		第4回	食欲・食行動				
		第5回	咀嚼・飲み込む・消化				
		第6回	消化・吸収				
		第7回	排泄（排便）				
		第8回	生活と身体の構造と機能、 内部環境の恒常性の維持のための循環と呼吸				
		第9回	内部環境の恒常性（ストレスへの対応も含む）				
		第10回	流通の媒体としての血液				
		第11回	流通の原動力としての心臓・血圧				
		第12回	息を吸う・吐く・ガス交換				
		第13回	風呂に入る、子どもを生む				
		第14回	外部環境とからだ（食べ息し眠り筋肉を使い活動し、現代環境と影響し合う）				
第15回	まとめ・試験						
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として一般病院にて看護業務に10年間携わった経験がある					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		生化学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		松井 喜治					
授業目的		看護に関連する学問を学修する上で、生化学はその基礎となる必須の科目である。 本講義では生体の構成成分のみならず、いかに恒常性を得ているか、さらに恒常性の破綻がどのような疾患発症に関与するかを学修することを目的とする。					
到達目標		1) 生体の構成生物成分を説明できる 2) 刺激の伝達のしくみを理解できる 3) 生体の恒常性とその破綻による疾患を理解できる					
授業の概要		講義は配付資料、板書を用いて行う。 理解度把握のために適宜小テスト及び中間テストを行う。					
成績評価		中間試験(50%)・本試験(50%)					
教科書等		時政孝行:看護に必要なやり直し生物・化学(照林社) 畠山鎮次:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学(医学書院)					
自己学習		講義で行った内容を復習し理解する					
留意事項(持参品等)		テキストとノート、筆記用具					
授業計画(授業内容)		第1回	生化学イントロダクション・細胞の構造と機能				
		第2回	細胞の構造と機能				
		第3回	脂質代謝				
		第4回	糖質代謝				
		第5回	タンパク質とアミノ酸代謝				
		第6回	核酸の構造と機能				
		第7回	ビタミンの種類とはたらき				
		第8回	中間まとめ・中間試験				
		第9回	エネルギー代謝				
		第10回	酵素の性質とはたらき				
		第11回	栄養素の消化吸収				
		第12回	水、無機質の消化・吸収				
		第13回	生体の恒常性				
		第14回	ホルモンと代謝調節				
		第15回	まとめ・本試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		薬理学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		宇野 文夫					
授業目的		看護学を学ぶための基礎知識として、薬物療法の原理、薬物代謝、投与方法、副作用、代表的な薬物の作用の仕組みを学び、さらに、主な疾患の薬物療法について理解することを目的とする。					
到達目標		1)薬理学の基本的知識を修得し、薬物療法の原理、投与方法による効果、副作用、主な薬剤の薬理作用と作用機序を説明できる。 2)主な疾患の薬物療法を説明できる。					
授業の概要		医療に携わる者にとって不可欠な医薬品の知識を学ぶ。 1)薬物療法の目的と方法 2)医薬品の取り扱いと規則 3)作用のメカニズム、薬物代謝、有害作用及び薬物依存等 4)医薬品の適用、製剤及び調剤の基礎知識 5)主要な医薬品の臨床応用と主な疾患の薬物療法					
成績評価		筆記試験によって評価する					
教科書等		吉岡充弘他:疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学(医学書院) 北原光夫他:治療薬マニュアル2024(医学書院)					
自己学習		講義開始までにテキスト、配付資料等の該当箇所を読んでおくこと。 練習問題を配布するので、教員の指示により解答し提出すること。					
留意事項(持参品等)		総論の授業では薬理学教科書(医学書院)、各論の授業ではこれに加えて『今日の治療薬』を持参すること					
授業計画(授業内容)		第1回	薬物療法の目的と方法				
		第2回	薬が作用するしくみ				
		第3回	薬物動態と作用に関連する因子				
		第4回	薬の副作用				
		第5回	適用、製剤及び調剤の基礎知識				
		第6回	医薬品の取り扱いと規則				
		第7回	感染症の薬物療法				
		第8回	感染症の薬物療法、抗がん薬				
		第9回	解熱・鎮痛・抗炎症薬等				
		第10回	自律神経系、体性神経系に作用する薬				
		第11回	循環器疾患の薬物療法				
		第12回	中枢神経系に作用する薬				
		第13回	精神・神経系疾患の薬物療法				
		第14回	消化器疾患の薬物療法				
		第15回	呼吸器疾患・感覚器疾患の薬物療法				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】感染症・薬理学に関する教育・研究の実務経験あり。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		病理学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		藤井 昌江					
授業目的		諸臓器病変の原因、経過、発症の仕組みなど理解し、臨床において未経験な事柄に遭遇しても弾力的に対処できるための基礎知識を修得することを目的とする。					
到達目標		各臓器の【呼吸器系、消化器系、内分泌系、造血器計、生殖器系、神経系】の代表的疾患の概説ができる。 また病因を正しく説明できる。医学用語、病理学用語を正しく理解できる。					
授業の概要		病理学は、基礎医学と臨床医学を結びつける学際領域の学問であり、臨床にかかわるときの医学知識の礎となるものである。 主な内容として、循環器・血液・造血器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌腺・中枢神経・運動器・膠原病および厚生労働省指定の難病・AIDSなどである。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		大橋健一他:疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学(医学書院) ナーシング・サプリー編集委員会:イメージできる病態生理学(メディカ出版)					
自己学習		指定した教科書およびプリントの復習をしておくこと。 既習学習である解剖生理学の復習をし、まとめノートを持参して活用する。					
留意事項(持参品等)		病変組織の臓器などカラースライド・ビデオなどを講義するので出席のこと。					
授業計画(授業内容)		1. 病理学総論					
		1)病理学とは					
		2)先天異常					
		3)代謝障害					
		4)循環障害					
		5)炎症と免疫、膠原病					
		6)感染症					
		7)腫瘍					
		2. 病理学各論					
		1)循環器の病理、特に心筋梗塞、心内膜炎、動脈硬化症、大動脈瘤、高血圧症					
2)血液・造血器の病理、特に貧血・白血病・骨髄腫など							

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		病理学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		藤井 昌江					
授業計画(授業内容)		3)呼吸器の病理、特に各病原体別肺炎、肺結核症、 閉塞性肺疾患としての慢性期気管支炎、気管支喘息、 肺気腫その他					
		4)消化器の病理、特に消化管の癌、本態性慢性炎症など 肝、胆嚢、膵の病気 泌尿器の病気					
		5)生殖器の病理 男性・女性疾患					
		6)内分泌腺の病理					
		7) 中枢神経の病理					
		8) 運動器の病理					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		感染症と微生物				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		宇野 文夫					
授業目的		ヒトと密接に関連する各種微生物の性状と、これらの微生物が原因となる感染症について理解し、看護学を学修するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。					
到達目標		1) 感染症の原因となる微生物の特徴と、ヒトとの関わり、感染症の基本的な概念について述べることができる。 2) 主な感染症および原因となる微生物について列挙し、概略を述べることができる。					
授業の概要		病原微生物の生物学的特徴、人の生活との関わり、感染症の基本概念について学ぶ。主な感染症及び原因となる微生物について学ぶ。併せて、感染症の原因となる主な微生物の検査法・治療法について学ぶ。					
成績評価		筆記試験を実施する。					
教科書等		南嶋洋一他: 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学(医学書院) 必要により、補充教材を作成して配付する。					
自己学習		練習問題を配付するので、教員の指示により解答し提出すること。					
留意事項(持参品等)		授業には教科書および配布した補充教材・練習問題を持参すること					
授業計画(授業内容)		第1回	微生物学概説と各微生物の生態・分類上の位置				
		第2回	細菌の形態、増殖様式、分類、常在細菌叢等人体とのかかわり				
		第3回	真菌と原虫の性質及びそれらによる感染症				
		第4回	ウイルスの特徴、構造と機能、増殖等				
		第5回	感染と感染症1(細菌が原因となる感染症の総論)				
		第6回	感染と感染症2(ウイルスが原因となる感染症の総論)				
		第7回	感染と生体防御の概説				
		第8回	細菌感染症各論1				
		第9回	細菌感染症各論2				
		第10回	細菌感染症各論3				
		第11回	細菌感染症各論4				
		第12回	ウイルス感染症各論1				
		第13回	ウイルス感染症各論2				
		第14回	ウイルス感染症各論3				
		第15回	ウイルス感染症各論4				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】ウイルス学・微生物学に関する教育・研究の実務経験あり。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅰ (腎・泌尿器・内分泌・代謝アレルギー)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		渡辺 浩志(1～3回) 村田 匡(4～6回) 森木 康之(7～15回)					
授業目的		疾患とその医学的対応の視点から、看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識として、腎疾患・泌尿器疾患・生殖器障害・内分泌・代謝疾患・膠原病・アレルギーなどの障がいを持つ患者の病態生理・症状・検査・治療について学修する。					
到達目標		1)腎疾患について理解できる。 2)泌尿器疾患について理解できる。 3)生殖器疾患について理解できる。 4)内分泌・代謝疾患について理解できる。 5)膠原病・アレルギーに関する疾患が理解できる。					
授業の概要		腎・泌尿器疾患・生殖器疾患・内分泌・代謝疾患・膠原病・アレルギーの病態生理・症状・検査・治療について理解する。					
成績評価		各講師により定期試験(100%)を行う。					
教科書等		伊波早苗他:成人看護学[6] 内分泌・代謝(医学書院) 今井亜矢子他:成人看護学[8] 腎・泌尿器(医学書院) 岩田健太郎他:成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)					
自己学習		「解剖生理学」を復習しておく。					
留意事項(持参品等)		授業はそれぞれの講師によって時間変更や授業内容が変わることがあるので注意をする。					
授業計画(授業内容)		第1～6回 腎・泌尿器系の疾患 (村田・渡辺)					
		1.症状とその病態生理					
		尿の異常、排泄の異常、浮腫、水と電解質の異常、					
		高血圧、循環器系の異常、血液の異常、尿毒症、					
		疼痛(圧痛、仙痛)、腫脹・腫瘤、その他の症状					
		2.診断・検査					
		3.治療・処置					
		透析療法・腎移植など					
		4.疾患の理解					
		腎不全、原発性糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害、					
		間質性腎炎、腎血管性病変、尿細管機能異常、					
		尿路の通過障害と機能障害、腎・尿路の腫瘍など					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅰ (腎・泌尿器・内分泌・代謝アレルギー)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		渡辺 浩志(1～3回) 村田 匡(4～6回) 森木 康之(7～15回)					
授業計画(授業内容)		第7～15回 内分泌・代謝系の疾患 (森木)					
		1.症状とその病態生理					
		救急場面および一般診療で内分泌・代謝疾患を疑う所見					
		2.診断・検査					
		3.治療・処置					
		4.疾患の理解					
		内分泌疾患(視床下部-下垂体前葉系・後葉系疾患、 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患、 消化管ホルモン産生腫瘍等)					
		5.疾患の理解					
		代謝疾患(糖尿病、高脂血症、肥満症とメタボリックシン ドローム、尿酸代謝障害等)					
		甲状腺・副甲状腺(上皮小体)の疾患					
		免疫系の疾患(感染症)					
		1.症状とその病態生理					
		発熱・発疹・下痢					
		2.診断・検査					
		3.治療・処置					
		4.疾患の理解					
		敗血症・髄膜炎・気道感染症					
		5.膠原病					
		6.HIV					
		7.アレルギー疾患					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅱ (脳・神経・運動・感覚器)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		佐近隆二(脳・神経) 内田陽一郎 (運動器) 宮口美穂(眼・耳鼻・皮膚)					
授業目的		疾患とその医学的対応の視点から、看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識として、脳・神経障害・感覚器障害・運動器障害の病因と病変特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。					
到達目標		1)それぞれの疾患概念を理解できる 2)それぞれの疾患の症状や臨床経過について理解できる 3)それぞれの疾患の診断や検査について理解できる 4)疾患概念に基づく治療法について理解できる					
授業の概要		疾病概念と診断・治療法を学ぶ。脳・神経疾患、運動器疾患、感覚器疾患について、それぞれの疾病の診断、検査、治療法の実際について学ぶ。講義内容は今後の看護学演習、実習に必須な知識である。当該の知識や考え方が十分でなければ、看護実践が困難となる。講義には高度で専門的な看護を実現するための必須の内容が含まれている。本科目の理解は、臨地実習に不可欠である。					
成績評価		各講師による定期試験で総合評価(100%)					
教科書等		井手隆文他:成人看護学[7] 脳・神経(医学書院) 田中 栄他:成人看護学[10] 運動器(医学書院) 渡辺晋一他:成人看護学[12] 皮膚(医学書院) 大鹿哲郎他:成人看護学[13] 眼(医学書院) 小松浩子他:成人看護学[14] 耳鼻咽喉(医学書院) 北島雄光他:臨床外科看護各論(医学書院)					
自己学習		「解剖生理学」を必ず復習しておく 病理学・生化学と関連する。心理学・人間関係論など広範な知識を活用して診断治療の選択ができるよう努力を要する。					
留意事項(持参品等)		参考書:リハビリテーション看護(医学書院) ※講義順は入れ替わることがあるので、講義予定表で確認すること。					
授業計画(授業内容)		第1～6回 脳神経系の疾患 (佐近先生)					
		1.症状とその病態生理					
		意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・感覚機能障害・反射性運動の障害・頭蓋内圧亢進と脳嵌入・髄膜刺激症状・頭痛					
		2.診断・検査					
		治療・処置(内科的、外科的)					
		3.疾患の理解					
		脳疾患(くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、TIA、脳腫瘍、頭部外傷、脱髄疾患など)					
		脊髄疾患(脊髄炎、脊髄小脳変性症など)					
		末梢神経疾患					
		神経・筋疾患(重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋委縮性側索硬化症など)					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅱ (脳・神経・運動・感覚器)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		佐近隆二(脳・神経) 内田陽一郎 (運動器) 宮口美穂(眼・耳鼻・皮膚)					
授業計画(授業内容)		4.脳・神経系の感染症(脳炎、髄膜炎、破傷風、クロイツフェルト・ヤコブ病など)中毒・てんかん・認知症					
		第7～11回 骨・筋系の疾患 (内田先生)					
		1.症状とその病態生理					
		疼痛・形態の異常・関節運動の異常・神経の障害・異常歩行 または跛行					
		2.診断・検査と治療・処置					
		3.疾患の理解					
		外傷性運動器疾患(骨折・脱臼・捻挫および打撲・神経損傷)					
		先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍・軟部腫瘍、 代謝性骨疾患、筋および腱の疾患(進行性筋ジストロフィーなど)、 神経の疾患(脳性麻痺、末梢性ニューロパシー、 進行性神経障害など)					
		脊椎の疾患(ヘルニア、骨粗鬆症など)					
		上肢および上肢帯の疾患・下肢および下肢帯の疾患					
		第12～15回 3.耳鼻咽喉系疾患(宮口先生)					
		1.眼科系疾患					
		1)症状とその病態生理					
		2)検査と治療					
		3)疾患の理解					
		機能障害・部位別の疾患・外傷・全身疾患との関連					
		2.皮膚系疾患					
		1)症状とその病態生理					
		2)検査と治療					
		3)疾患の理解					
		表在性皮膚疾患・真皮・皮下脂肪組織および付属器の疾患・ 脈管系の皮膚疾患					
		腫瘍および色素異常症・微生物・動物が関与する疾患 内臓疾患に伴う皮膚病変					
		3.耳鼻咽喉系疾患					
		1)病態生理と主な症状					
		難聴・鼻閉・咽頭痛・言語障害					
		2)診断・検査					
		3)治療・処置					
		4)主な症状					
		中耳炎・メニエール病・副鼻腔炎					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅲ (呼吸器・循環器・血液・造血器)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		高田 一郎(1～ 4回) 永井 正浩(5 ～10回) 松井 喜治(11～13回) 森木 康之(14～15回)					
授業目的		疾患とその医学的対応の視点から、看護の展開に必要とする医学的な基礎知識として、呼吸器障害・血液・造血器障害・循環器障害の患者の病態生理・症状・検査・治療について学修する。また、免疫疾患など病態治療から看護に必要な基礎知識を学修する。					
到達目標		1)呼吸器疾患の病態・症状・診断・治療法が理解できる。 2)血液・造血器疾患の病態・症状・診断・治療法が理解できる。 3)循環器疾患の病態・症状・診断・治療法が理解できる。 4)免疫疾患の病態生理、症状・検査・治療が理解できる。					
授業の概要		呼吸器障害・血液・造血器障害・循環器障害患者の病態生理・症状・検査・治療について理解する。また免疫疾患の病態生理・症状・検査・治療について理解する。					
成績評価		各講師による定期試験(100%)					
教科書等		朝倉啓介他:成人看護学[2] 呼吸器(医学書院) 吉田俊子他:成人看護学[3] 循環器(医学書院) 飯野京子他:成人看護学[4] 血液・造血器(医学書院) 岩田健太郎他:成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症(医学書院) 【参考文献】ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護(3) 造血機能障害/免疫機能障害(メディカ出版)					
自己学習		「解剖生理学」を復習しておく					
留意事項(持参品等)		授業はそれぞれの講師によって変更や授業内容の変更があるので注意する。					
授業計画(授業内容)		第1～4回 呼吸器系の疾患 (高田)					
		1.症状とその病態生理					
		自覚症状(喀痰、血痰、喀血、咳、胸痛、呼吸困難)					
		他覚症状(チアノーゼ、ばち指、喘鳴、呼吸の異常など)					
		2.診断・検査					
		3.治療・処置					
		内科的					
		(酸素療法、吸入療法、呼吸理学療法、胸腔ドレナージなど)					
		4.疾患の理解					
		感染症(肺炎・結核)、間質性肺疾患、気道疾患(気管支喘息・気管支拡張症・慢性閉塞性肺疾患)					
		肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍、胸膜・縦隔膜・横隔膜の疾患					
		疾患、肺及び胸部					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅲ (呼吸器・循環器・血液・造血器)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		高田 一郎(1～ 4回) 永井 正浩(5 ～10回) 松井 喜治(11～13回) 森木 康之(14～15回)					
授業計画(授業内容)		第5～10回 循環器系の疾患 (永井)					
		1.症状とその病態生理 胸痛・動機・呼吸困難・浮腫・チアノーゼ・失神・四肢の疼痛・ ショック					
		2.診断・検査・治療・処置 内科的治療・処置、外科的治療・処置					
		3.疾患の理解 虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、先天性心疾患、 肺性心、動脈系疾患、静脈系疾患、リンパ系の疾患、脾臓の 疾患					
		第11～13回 血液・造血器系の疾患 (松井)					
		1.症状とその病態生理 貧血・白血病異常(増加・減少)・脾腫・リンパ節腫脹・出血傾向					
		2.診断・検査・治療・処置					
		3.疾患の理解 赤血球系の疾患(貧血)、白血球系の疾患(白血病等)、 リンパ網内系疾患(悪性リンパ腫)、異常タンパク血症(多発性 骨髄腫、アミロイドーシス)、出血性疾患(DICなど)					
		第14.15回 免疫機能の疾患 (森木)					
		1.免疫機能障害疾患の理解					
		2.免疫機能障害疾患の治療・処置					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		疾病治療論Ⅳ (消化器・乳腺・呼吸器)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		浅海 信也 石川 亘 香川 哲也 貞森 裕 黒瀬 洋平 西村 星多郎 日置 勝義 三浦 奈緒子 信岡 大輔 三島 顕人 池田 雅彦 成木 耕平 宮口 美穂					
授業目的		疾患とその医学的対応の視点から、看護の展開に必要とする医学的な基礎知識として、外科総論・消化器外科・乳がん・呼吸器障害・歯・口腔疾患患者の病態生理・症状・検査・治療について学修する。また、手術療法を受ける患者の看護に必要な基礎知識を学修する。					
到達目標		1)外科学について概要を理解できる。 2)消化器疾患の病態生理・症状・検査・治療が理解できる。 3)乳腺内分泌疾患の病態生理・症状・検査・治療が理解できる。 4)呼吸器疾患の病態生理・症状・検査・治療が理解できる。 5)手術療法・移植医療について理解できる。 6)歯・口腔疾患の病態生理・症状・検査・治療が理解できる。					
授業の概要		外科学総論を踏まえ、消化器系・乳腺内分泌・呼吸器障害患者の外科的・症状・検査・治療について展開する。また手術療法の治療について理解する。					
成績評価		各講師による定期試験(100%)					
教科書等		池上 徹他:臨床外科看護総論(医学書院) 北川雄光他:臨床外科看護各論(医学書院) 南川雅子他:成人看護学[5]消化器(医学書院) 朝倉啓介他:成人看護学[2]呼吸器(医学書院) 渋谷絹子他:成人看護学[15]歯・口腔(医学書院)					
自己学習		「解剖生理学」を復習しておく。					
留意事項(持参品等)		授業はそれぞれの講師によって変更や授業内容の変更があるので注意する。					
授業計画(授業内容)		第1回	外科医療の基礎(手術侵襲・創傷治療) (日置)				
		第2回	外科的治療を要する疾患・症状(外科的治療の適応・腫瘍の治療・外傷・熱傷とショック) (三島)				
		第3回	消化器疾患の徴候 (西村)				
		第4回	移植医療、緩和医療 (貞森)				
		第5回	手術療法 (香川)				
		第6回	上部消化管(食道・胃) (浅海)				
		第7回	消化器疾患の検査 (三浦)				
		第8回	下部消化管(小腸・大腸) (石川)				
		第9回	消化器(ヘルニア・ポリープ・大腸がん) (黒瀬)				
		第10回	肝臓・胆嚢・胆管・膵臓疾患 (信岡)				
		第11.12回	乳がん (池田)				
		第13.14回	呼吸器外科 (成木)				
		第15回	歯・口腔 (宮口)				
		※講義順は入れ替わることがあるので、講義予定表で確認すること。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床治療論(検査)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間 (うち14時間)
担当教員		藤井 昌江					
授業目的		臨床医学における臨床検査の役割・目的・方法を理解し、検査結果を科学的に解釈するための基本的知識を身につける。					
到達目標		1)臨床医学における臨床検査の役割と看護師の役割が理解できる。 2)主要な検査の意義・目的が理解できる。 3)検査の結果から、疾病の状況を推測し、解釈していくための基本的知識が習得できる。 4)検査の結果から、看護実践をするうえで必要な観察や援助内容が理解できる。					
授業の概要		検査を受ける患者への具体的な看護の内容をイメージしながら学習しましょう。 また、一つ一つの検査に対して検査結果の正常・異常のみではなく、体の変化や物質の体への働き、検査の意義、看護の必要性とポイントをまとめながら学習できる流れにしています。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		監)高久史磨:臨床検査データブック(医学書院) 【参考書】監)竹尾恵子:看護技術プラクティス(学研) 【参考書】荒木 昭博他:系統看護学講座 別巻 臨床検査(医学書院)					
自己学習		既習の疾病治療論の復習と合わせて学習する。					
留意事項(持参品等)		各々の検査を学習するときには、必ず系統看護学講座専門Ⅱの領域の教科書の「疾病の理解」の各疾病の「検査」「診断」の内容と照合して、学習内容を統合させながら大事な内容を『看護に役立つ検査事典』に書き込むか、付箋を使用するなどの方法で学習しましょう。					
授業計画(授業内容)		(藤井)	1.診療における臨床検査の役割				
			2.臨床検査の流れと看護師の役割				
			3.主な臨床検査の目的と結果の解釈				
			1)一般検査				
			2)血液検査				
			3)血液化学検査				
			4)免疫・血清検査				
			5)ホルモン検査				
			6)微生物検査				
			7)病理検査				
			8)生理機能検査				
			演習項目:心電図				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床治療論(放射線治療・放射線診断)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間 (うち6時間)
担当教員		井田 健太郎 小林 満					
授業目的		疾病の回復を促進するための診断、治療、検査としての放射線の原理を学び、放射線画像診断及び放射線治療の目的・方法を学ぶ。					
到達目標		1. 診断・治療・検査としての放射線の原理が理解できる。 2. 画像診断の各々の特徴と画像のなりたち、検査の実際及び診断が理解できる。 3. 放射線治療の原理、特徴と目的、方法が理解できる。 4. 放射線治療の実際が理解できる。 1) 適応と治療法 2) 有害反応と対処 5. 放射線による障害と防護が理解できる。					
授業の概要		教科書に添いつつ、視覚教材を活用して授業を展開している。多くの疾患に画像診断が用いられており、各々の疾患の特徴的な画像が読めることは看護師国家試験にも出題され知識が求められている。授業の中で出されたものは全て患者の状態として説明できる力をつけることを期待している。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		尾尻博也:臨床放射線医学(医学書院)					
自己学習		既習の病態治療論の復習と合わせて学習する。					
留意事項(持参品等)		授業内容と関連する学習内容が記載されている教科書と照合させながら学び、検査・治療を受ける患者の状態をイメージし、診療の補助行為などが適切にできる看護につなげることを意識して学習しましょう。					
授業計画(授業内容)		(井田)		1.放射線医学のなりたちと意義			
				2.画像診断			
		1)x線診断					
		2)CT					
		3)MRI					
		4)超音波検査					
		5)核医学検査					
		6)IVR・血管造影					
		(小林)		3.放射線治療			
				1)放射線治療総論			
				・原理、基礎、正常組織の有害反応			
				・特徴と目的、種類			
				2)放射線治療各論			
				4.放射線防護			

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床治療論(リハビリ、一次救命処置、集中治療:二次救命処置・ME機器)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間 (うち10時間)
担当教員		藤井(検査)井田(放射線診断)小林(放射線治療)久保田(リハビリ) 曾田(一次救急)松井(ME機器)					
授業目的		生命の危機的状況から一次救命処置、集中治療による二次救命処置、及び治療に用いる各種医療機器の原理を一次救命処置演習をとおり理解する。回復促進や障害とともに生きる対象の生活・生きる意欲を支えるリハビリテーションの概要・技術を理解する。さまざまな治療を理解し、医療現場における看護職者の役割、連携・協働を学ぶ。					
到達目標		1. 危機的状況から生命を救う一次救命処置の実際を学ぶ。 2. 集中治療による二次救命処置および治療に必要な医療機器の概要と使用するために必要な要素が理解できる。 3. リハビリテーションの概要を理解し、回復促進、障害と共に生きる対象を支える看護の必要性を考えることができる。 4. さまざまな治療を理解し、医療現場における看護職者の役割、連携・協働について理解できる。					
授業の概要		各専門職より専門性の高い講義・演習を体験し、命を救うための連携・協働の中で、看護師の役割を考え学ぶ。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		香春知永他:基礎看護学[4] 臨床看護総論(医学書院) 武田宣子他:リハビリテーション看護(医学書院) 近藤一郎他:看護がみえる vol.2 臨床看護技術(プラクティス)					
自己学習		既習の病態治療論の復習と合わせて学習する。					
留意事項(持参品等)		授業内容と関連する学習内容が記載されている教科書と照合させながら学び、検査・治療を受ける患者の状態をイメージし、診療の補助行為などが適切にできる看護につなげることを意識して学習しましょう。					
授業計画(授業内容)		(曾田)2コマ 一次救命処置演習、気管内挿管の実際と必要なME機器 (救急救命教員)					
		(松井) 集中治療における二次救命処置および治療に必要なME機器					
		2コマ 医療機器の原理と実際					
		1)ME機器とは					
		2)ME機器使用の基礎知識と取り扱い上の留意事項					
		3)測定用ME機器と治療用ME機器					
		4)看護の補助を行う機器					
		(久保田) リハビリテーション					
		2コマ 1. リハビリテーションの基本的考え方(理念・障害の概念・種類と特徴)					
		2. リハビリテーションスタッフの専門性と患者管理					
		3. 心疾患・呼吸器疾患リハビリテーション					
		4. 高次脳機能障害者リハビリテーション					
		5. 機能回復訓練・関節可動域運動(関節可動域測定、徒手筋力測定法を含む)					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護のための疾病論(病態生理学)				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		藤井 昌江(1～7回)、 今岡みどり(8～14回)					
授業目的		身体を構成している細胞・組織・器官が正常な形態を保ち、的確に生理機能を果たすことが重要である。これらの形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされる。病的な状態の身体に起きている異常な変化を知り、疾病の原因や成り立ち・進展など疾病の背後にある問題を探求していき、看護に活かせる。					
到達目標		1) 全身的な生理機能のゆがみのしくみが理解できる。 2) そこなわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填する方法が理解できる。 3) 病態が治療にどうつながり、援助にどうつなげるかが理解できる。					
授業の概要		病態生理学は人体の構造や人体の機能などの専門基礎分野と成人看護などの専門分野の知識をつなげる役目をする科目である。 人体の構造や人体の機能で学ぶ正常な生理機能の知識をふまえて重要な症状や徴候の病態生理を学習する。					
成績評価		藤井50点(客観試験) 佐藤50点(客観試験20点、提出物15点、授業点15点)					
教科書等		高木永子:看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版(学研) フラピエかおり:看護学生のための重要疾患ドリル2024(メヂカルフレンド社) 土居健太郎:系統看護学講座 病態生理学(医学書院)					
自己学習		解剖生理学、病理学、生化学など関連する科目と合わせて学習する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～7回 ・病態生理学を学ぶための基礎知識 (藤井)					
		・皮膚・体温調節のしくみと病態生理					
		・免疫のしくみと病態生理					
		・体液調節のしくみと病態生理					
		・血液の働きと病態生理					
		・循環のしくみとその病態生理					
		・呼吸のしくみと病態生理					
		・消化・吸収のしくみと病態生理					
		・腎・泌尿器のしくみと病態生理					
		・内分泌・代謝のしくみと病態生理					
		・生殖のしくみと病態生理					
		・脳・神経、筋肉の働きと病態生理					
		・感覚器のはたらきと病態生理					
		第8～15回 ・病因と予防(疾病と生活) (今岡)					
		・主な疾病の病態理解					
1.循環障害 2.組織細胞の障害							
3.代謝障害 4.腫瘍							

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床栄養学				専門基礎分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		三宅 麻絵					
授業目的		人体にとっての栄養の意義を理解し、各種疾患と栄養食事療法の関連について学ぶ。					
到達目標		1) 栄養サポートチーム(NST)の一員として傷病者の栄養状態を把握して改善目標の実施に参加できる能力を養う。 2) 栄養食事療法はどのように実施されているかを理解する。					
授業の概要		栄養の概念や意義を講義する。また、各種疾患について次の項に従って講義する。 1. 疾患の概要 2. 栄養食事療法の原則 3. 栄養食事療法の実際 4. 看護上の注意					
成績評価		定期試験(100%)により総合評価とする					
教科書等		足立香代子他: 栄養食事療法(医学書院) 日本糖尿病学会: 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版(文光堂)					
自己学習		自分自身の食生活を振り返り、栄養に関心を持つこと。 講義で配付した資料を見直しまとめること。					
留意事項(持参品等)		電卓					
授業計画(授業内容)		第1回	栄養素の栄養学的意義				
		第2回	栄養素の消化と吸収				
		第3回	栄養素の体内代謝 日本人の食事摂取基準				
		第4回	ライフステージ別栄養ケア(妊産婦・更年期)				
		第5回	ライフステージ別栄養ケア(乳幼児期・小児期)				
		第6回	ライフステージ別栄養ケア(成人期・高齢期)				
		第7回	栄養食事療法について				
		第8回	治療食の分類と特徴				
		第9回	循環器疾患の栄養食事療法				
		第10回	消化器系疾患の栄養食事療法				
		第11回	腎疾患の栄養食事療法				
		第12回	栄養代謝疾患の栄養食事療法				
		第13回	血液疾患の栄養食事療法				
		第14回	術前・術後の栄養食事療法				
		第15回	その他の疾患の栄養食事療法				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護学概論				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		水越 スミコ					
授業目的		看護の先駆者たちの主要概念等を通して看護の本質を理解し、専門職としての自己の看護観を発展させていく基本的能力を学修する。看護活動が科学的根拠に基づき倫理的に実践できることの重要性を学修する。					
到達目標		1)看護の基本となる概念が理解できる。 2)看護の対象である人間のさまざまな見方を知り、対象を統合体としてとらえる意味が理解できる。 3)健康の概念や保健医療システムを理解し、チームにおける看護者の役割が理解できる。 4)看護の提供システムについてサービスの考え方、提供の場、サービスの管理などについて理解できる。					
授業の概要		看護の主要概念である「人間、健康、環境、看護の概要」を認識して看護を考えることができ、看護の本質及び「看護学」を理解する。また、看護の先駆者として、ナイチンゲール、ヘンダーソンなどの看護理論を中心に概観し、看護を理解する。看護の現象を捉え看護の役割、課題について学び、法及び倫理、保健医療福祉サービスと関連させ看護の対象を理解する。					
成績評価		定期試験と小テスト等の総合評価とする。					
教科書等		茂野香おる他:基礎看護学[1] 看護学概論(医学書院) ナイチンゲール:看護覚え書(日本看護協会出版会) V・ヘンダーソン:看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) 黒田裕子:看護診断のためのよくわかる中範囲理論 手島恵:看護職の基本的責務(日本看護協会出版会)					
自己学習		指示した教科書を熟読する。					
留意事項(持参品等)		教科書は常に持参すること					
授業計画(授業内容)		第1.2回 看護の概念					
		第3回 看護の歴史的変遷:ナイチンゲールの業績と看護					
		第4回 看護学のはじまり(ヘンダーソン)					
		第5～8回 看護の対象の理解:人間とは、健康とは					
		第9.10回 国民の健康・生活の全体像の把握					
		第11回 看護者の職業倫理					
		第12.13回 看護の提供システムと看護の役割					
		第14回 看護における法律					
		第15回 まとめ、試験					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として国立病院機構にて看護業務に11年間携わった経験がある					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護理論				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		水越 スミコ					
授業目的		看護の科学的根拠として用いられる理論の基礎を理解し、代表的な理論家とその理論について学ぶ。					
到達目標		1.看護学の理論とモデルの概要を理解できる。 1)看護理論とは 2)看護理論の分類(大・中範囲・実践理論) 3)看護理論の変遷 4)看護学の代表的な理論とモデルの概要 2.看護実践における看護理論の活用方法を理解できる。					
授業の概要		授業毎事前課題を提示するので、看護理論家の背景と理論の内容を参考文献を基に自己学習し、グループで事前検討することで理解を深める学習方法をとる。					
成績評価		出席状況・授業(演習)態度・小テスト・定期試験結果から総合的に判断す					
教科書等		黒田裕子:看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研) ナイチンゲール:看護覚え書(日本看護協会出版会) ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) 茂野香おる他:基礎看護学[1] 看護学概論(医学書院)					
自己学習							
留意事項(持参品等)		授業開始前までにシラバスで紹介しているテキスト・参考書に目を通して おき、授業前の課題に取り組みやすいように準備しておく。					
授業計画(授業内容)		第1回	1.看護理論とは				
			2.看護理論の変遷				
		第2回	1.看護理論の分類 大理論・中範囲理論・実践理論				
			2.ナイチンゲール				
		第3回	1.ヘンダーソン				
		第4回	1.ロイ				
			2.オレム				
		第5回	1.ウィーデンバック、トラベルビー				
		第6.7回	1.各看護理論の演習				
		第8回	試験				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護過程				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山本 千佳子					
授業目的		看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解し看護の展開方法について修得する。					
到達目標		1) 看護過程の基盤となる考え方が理解できる。 2) ヘンダーソン理論を用いた看護過程のステップが理解できる。 3) アセスメントを理解し、事例のアセスメントができる。 4) 看護診断・看護目標・看護計画立案・実践・評価が理解し、事例の看護診断・看護目標・看護計画立案・評価ができる。 5) 記録の必要性和記録内容(項目)が理解できる。					
授業の概要		看護の思考に基づき、看護問題を解決していくための思考と行動の過程を学ぶ(事例を用いた看護過程)。					
成績評価		ワーク状況,提出物小テスト(60%) 終講試験(40%)の総合評価					
教科書等		有田清子他:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2) (医学書院) 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3) (医学書院) リンダJ.カルペニート:看護診断ハンドブック(医学書院) 臨床検査データブック(医学書院) 北原光夫他:治療薬マニュアル2024(医学書院)					
自己学習		主体的に事前学習と復習(課題への取り組み)をする。					
留意事項(持参品等)		「看護過程」の講義専用のA4ファイル2冊とインデックスを準備する。必要なテキストや資料などは講義回毎に異なるのでその都度知らせる。					
授業計画(授業内容)		第1回	看護とは(看護における倫理・看護の役割と機能・看護記録と実習記録)				
		第2回	看護過程の基盤となる考え方(問題解決過程・クリティカルシンキング・リフレクション・臨床推論と臨床判断・看護理論)				
		第3回	看護過程の展開(看護過程・アセスメント)				
		第4回	アセスメント(データ収集)				
		第5回	アセスメント(ヘンダーソンの分析の視点、人間の反応の理解)				
		第6回	アセスメント(強み・成り行き)				
		第7回	看護診断				
		第8回	看護目標・看護計画立案				
		第9回	記録・報告・評価				
		第10回	事例演習(Aさんのアセスメントに必要な知識)()の事例				
		第11回	事例演習(Aさんのアセスメント①)				
		第12回	事例演習(Aさんのアセスメント②)				
		第13回	事例演習(Aさんの看護診断・計画立案)				
		第14回	事例演習(Aさんの看護介入の実施と評価)				
		第15回	事例演習のまとめ				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		ヘルスアセスメント				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		後藤 直美					
授業目的		ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、対象者を全人的・多角的に捉える方法を修得する。					
到達目標		1)ヘルスアセスメントに必要な知識や技術の基本が理解できる。 2)ヘルスアセスメントの内容と進め方が理解できる。 3)系統別にフィジカルアセスメントし、健康状態を査定できる。					
授業の概要		ヘルスアセスメントの重要性を学び、身体の診察に必要な知識や技術を系統別に理解する。知識と技術を統合し、演習を行う。					
成績評価		演習状況(30%) 定期試験(70%) その他提出物、演習姿勢を含む					
教科書等		有田清子他:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2) (医学書院) 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3) (医学書院) 平田雅子:「完全版」ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学(学習研究社) 竹尾恵子:看護技術プラクティス (学研) 山内豊明:フィジカルアセスメントワークブック(医学書院)					
自己学習		人体の解剖生理学を復習しておく。					
留意事項(持参品等)		聴診器・演習時には白衣、ナースシューズ他規定通りの身だしなみを整える					
授業計画(授業内容)		第1回	ヘルスアセスメントー全体の概観アセスメントに必要な技術				
		第2回	ヘルスアセスメントー全身状態・全体印象把握・身体計測				
		第3.4回	系統別フィジカルアセスメント(呼吸器系)				
		第5回	系統別フィジカルアセスメント(循環器系)				
		第6回	系統別フィジカルアセスメント(循環器系・リンパ系)				
		第7回	系統別フィジカルアセスメント(消化器系)				
		第8回	系統別フィジカルアセスメント(乳房・腋窩・生殖器・腹部・筋・骨格系・神経系)				
		第9回	系統別フィジカルアセスメント(皮膚・爪・髪・頭頸部と感覚器)				
		心理的・社会的側面のアセスメント					
		第10.11回	症状・徴候からのアセスメント				
		第12～14回	事例展開(フィジカルアセスメント展開)				
		胸痛・不整脈・呼吸困難のある患者アセスメント					
		第15回	試験				
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。【実務経験】看護師として一般病院にて看護業務に10年間携わった経験がある					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		共通基本技術Ⅰ（技術論・安全）				専門分野	
学年	1年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山本千佳子					
授業目的		技術の概念を学び、看護技術の意義と特徴について理解し、技術習得の重要性を理解する。患者の安全と安楽を守るための看護技術の考え方と方法を学ぶ。					
到達目標		1) 看護技術の意義と特徴が理解できる。 2) 看護における安全・安楽を守る技術が理解できる 3) 感染防止の方法を理解し、実践できる					
授業の概要		看護技術の概念及び意義と特徴を理解したうえで、患者の安全・安楽を守るための看護技術の方法及び感染防止策について演習を通して実践できるまで繰り返し学習する。					
成績評価		定期試験 技術試験(10点) 提出物・演習態度を含む					
教科書等		任和子他:基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 竹尾恵子:看護技術プラクティス（学研）					
自己学習		・感染症と微生物の学習内容の既習学習として定着させておく。 ・図書館の関連図書を読む。					
留意事項(持参品等)		事前説明あり					
授業計画(授業内容)		1回～8回 【講義・グループ学習】看護技術とはなにか					
		1) 看護実践を構成する要素					
		2) 看護技術を支える「看護の基本的機能」					
		3) エビデンスに基づく看護技術					
		【講義・演習】感染防止					
		1) 看護技術における安全・安楽を守る意義					
		2) 感染予防の意義スタンダードプリコーション					
		3) 感染経路予防策洗浄・消毒・滅菌・無菌操作					
		4) 感染性廃棄物の取り扱い針刺し防止策					
		医療施設における感染管理					
		5) 演習衛生学手洗いPPE滅菌手袋 【技術試験あり】					
		6) 演習滅菌物の取り扱い					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		共通基本技術Ⅰ（技術論・安全）				専門分野	
学年	1年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山本千佳子					
授業計画（授業内容）		第9～13回【講義・グループ学習】安全確保の技術					
		1)安全確保の基礎知識					
		2)診療の補助事故防止誤薬防止					
		3)療養上の世話事故防止					
		①チューブ類事故防止 ②患者誤認					
		4)療養上の世話事故防止 ③転倒転落					
		5)薬剤・放射線曝露防止					
		第14回【講義・グループ学習】					
		看護における学習支援の意義と目的					
		【発表・学習の共有】					
		看護における学習支援の意義と目的					
		第15回 まとめ・試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		共通基本技術Ⅱ (観察・バイタルサイン)				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		宮口 美穂 坂本 聡子					
授業目的		看護におけるコミュニケーション技術と観察及び報告の意義と方法について学ぶ。 バイタルサインの測定の技術を学ぶ。					
到達目標		1)看護における観察の目的を理解した上で、必要条件をそなえた観察について理解できる。 2)看護における報告・連絡の意義とI-SBARCが理解できる。 3)看護におけるコミュニケーション技術が理解できる。 4)プロセスレコードの記載について理解できる。 5)看護における報告について理解できる。					
授業の概要		既習の人間関係論、心理学の知識を理解した上でコミュニケーション技術の学習をする。 また、既習の解剖生理と病態生理の知識を理解した上で、バイタルサインの測定を学習する。					
成績評価		定期試験(50% 観察5点、コミュニケーション・バイタルサイン45点) 技術試験(50% バイタルサイン25点、コミュニケーション25点)					
教科書等		有田清子他:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2) (医学書院) 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3) (医学書院) 平田雅子:「完全版」ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学 (学習研究社) 竹尾恵子:看護技術プラクティス (学研) ナイチンゲール:看護覚え書(日本看護協会出版会) ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)					
自己学習		関連科目の復習をする。繰り返し練習する。 主体的にシミュレーターを用いて練習する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	【講義・ペアワーク】看護における観察と報告				
			1) 観察から始まる看護				
			2) 今日から始めるI-SBARC				
		第2～8回	コミュニケーション技術				
			1)コミュニケーションの必要性和種類				
			2)関係構築のコミュニケーション技術				

[illegible]

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		生活援助論Ⅰ（環境・活動と休息）				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山本千佳子（環境） 朝日奈 沙妃（活動と休息）					
授業目的		人間の生活における生活行動の意義を理解し、日常生活行動に支障を来す対象への援助技術を習得する。					
到達目標		1) 看護における環境の概念を理解し、対象の生活環境を調整する知識と技術を習得できる。 2) 対象における活動・休息の意義と援助を理解し、その技術を習得できる。					
授業の概要		看護における環境の概念を学び、対象の生活環境を調整する知識と技術を学ぶ。 対象における活動、休息の意義と援助を理解し、それを整えるための技術を習得する。 主体的に繰り返し練習する。					
成績評価		定期試験 課題提出状況、小テストを含む 実技試験 臥床患者のベッドメイキング（体位変換・移動・移送）					
教科書等		有田清子他：基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2)（医学書院） 有田清子他：基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3)（医学書院） 平田雅子：「完全版」ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学（学習研究社） 竹尾恵子：看護技術プラクティス（学研） ナイチンゲール：看護覚え書（日本看護協会出版会） ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）					
自己学習		教科書、参考図書を用いて予習、復習を行う。 演習した技術については、反復練習を行う。					
留意事項(持参品等)		演習時は実習室使用のルールと身だしなみを整えて臨むこと。					
授業計画(授業内容)		第1回	1) 環境とは(環境の概念) (山本)				
			2) 療養生活の環境：個室と多床室・病室の構成・温度と湿度・光と音・色彩・空気とにおい				
			3) 病室の環境のアセスメントと調整：環境調整の必要性 ベッドメイキングの必要性・マットレス・枕・リネン類の選択と準備				
		第2回	1) リネン類のたたみ方 (山本)				
			2) ベッドメイキングの留意点と方法				
			3) 臥床患者のリネン交換の留意点と方法				
			4) 次回講義(技術テスト)までの課題の説明				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		生活援助論Ⅰ（環境・活動）				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山本千佳子(環境) 朝日奈 沙妃 (活動と休息)					
授業計画(授業内容)	第3.4回	1)ベッドメイキング技術テスト (山本)					
		2)次回講義(技術テスト)までの課題の説明 光と音・色彩・空気とにおい					
		3)病室の環境のアセスメントと調整:環境調整の必要性 ベッドメイキングの必要性・マットレス・枕・リネン類の選択と準備					
	第5.6回	1)臥床患者のリネン交換技術テスト (山本)					
	第7回	【講義】活動・運動の意義 (朝日奈)					
		活動・のニーズとアセスメント					
	第8回	【講義・演習】 活動を支援する援助の基礎知識① ボディメカニクス、ポジショニング					
	第9回	【演習】 活動を支援する援助の実際① 体位変換、床上運動、立位、歩行					
	第10回	【演習】 活動を支援する援助の実際② 移乗、移送(車椅子・ストレッチャー)					
	第11回	【講義・演習】 活動を支援する援助の基礎知識②					
	第12.13回	【シミュレーション演習】 活動に関わる看護のまとめ 関節可動域訓練・レクリエーション活動					
	第14回	【講義・GW】休息・睡眠の意義 (朝日奈)					
	第15回	【講義・GW】休息・睡眠の援助 (朝日奈)					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		生活援助論Ⅱ(清潔・衣生活)				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		茶木五月 友野智絵					
授業目的		人間の生活における生活行動の意義を理解し、日常生活行動に支障を来す対象への援助技術を習得する。					
到達目標		1)皮膚と粘膜の保護および清潔保持による身体的影響や心理・社会的影響を理解し、その人らしい生活を送るための援助方法について理解できる。 2)清潔のニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択できる。 3)清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、入浴介助、更衣について 原理原則に基づき、効果的な援助方法で清潔ケアの実践ができる。					
授業の概要		対象の健康状態に応じた清潔・衣生活の意義と援助の必要性和方法を理解し、清潔・衣生活を整えるための技術を習得する。					
成績評価		定期試験(40点) 課題提出状況、小テスト、グループワーク、演習姿勢 実技試験(60点)で総合的に評価する					
教科書等		有田清子他:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2)(医学書院) 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3)(医学書院) 平田雅子:「完全版」ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学(学習研究社) 竹尾恵子:看護技術プラクティス(学研) ナイチンゲール:看護覚え書(日本看護協会出版会) ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)					
自己学習		教科書、参考図書を用いて予習、復習を行う。 演習した技術については、反復練習を行う。					
留意事項(持参品等)		演習時は実習室使用のルールと身だしなみを整えて臨むこと。					
授業計画(授業内容)		第1回	清潔の意義とアセスメント				
		第2回	【講義・デモスト】衣生活				
		第3回	【実技】寝衣交換				
		第4～6回	清拭				
		第7回	【講義・実技】 整容、口腔ケア ※フェイスシールド持参				
		第8回	【講義・デモスト】 シャワー、入浴、洗髪				
		第9回	【実技】 洗髪				
		第10回	【講義・実技】 部分浴				
		第11～13回	陰部洗浄、オムツ交換				
		第14回	清潔アセスメント演習				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		生活援助論Ⅲ（食事・排泄）				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山崎 愛(食事・6コマ) 友野 智絵(排泄・8コマ)					
授業目的		人間の生活における生活行動の意義を理解し、日常生活行動に支障を来す対象への援助技術を習得する。					
到達目標		1)対象の健康状態に応じた食事及び栄養の意義と栄養状態のアセスメント及び援助の必要性と方法を理解できる。 2)食生活を整えるための技術を習得できる。 3)対象の健康状態に応じた排泄の意義とアセスメント及び援助の必要性と方法を理解できる。 4)排泄を整えるための技術が習得できる。					
授業の概要		対象の健康状態に応じた食事・排泄の意義と援助の必要性と方法を理解し、食生活・排泄を整えるための技術を習得する。					
成績評価		定期試験 小テスト・その他提出物					
教科書等		有田清子他:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2)（医学書院） 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3)（医学書院） 平田雅子:「完全版」ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学（学習研究社） 竹尾恵子:看護技術プラクティス（学研） ナイチンゲール:看護覚え書（日本看護協会出版会） ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）					
自己学習		教科書、参考図書を用いて予習、復習を行う。 演習した技術については、反復練習を行う。					
留意事項(持参品等)		演習時は実習室使用のルールと身だしなみを整えて臨むこと。					
授業計画(授業内容)		第1.2回	食事援助技術:食事・栄養の意義と栄養状態のアセスメント				
		第3.4回	食事援助技術:食事摂取の介助				
		第5.6回	食事援助技術:非経口的栄養摂取の援助				
		第7回	排泄の意義とアセスメント				
		第8回	排泄援助技術:自然排尿および自然排便の介助				
		第9回	排泄援助技術:床上排泄援助				
		第10～12回	排泄援助技術:導尿・持続的導尿				
		第13.14回	浣腸				
		第15回	試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		診療の補助技術				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		後藤 直美					
授業目的		健康障害をもつ対象の健康状態の回復にむけて、診断・診療の意義・方法を理解し、診療の補助技術を習得する。					
到達目標		1)診療・検査・治療・処置を受ける対象への援助技術を習得できる。 2)薬物療法を受ける対象への援助技術を習得できる。 3)生命の危機状態に応じた救命救急処置方法を理解する。 4)グリーフケアについて理解し、死亡時のケア技術を習得する。					
授業の概要		健康障害のある対象者に行う援助技術を症状、経過別にねらいと目的を理解し、技術を習得する。					
成績評価		演習・技術演習・演習記録等(50%) 定期試験(50%) 他の提出物を含む					
教科書等		有田清子他:基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学(2) (医学書院) 有田清子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学(3) (医学書院) 竹尾恵子:看護技術プラクティス (学研)					
自己学習		関連科目として解剖生理学を復習して臨む。 事前学習・事後学習をして授業・技術演習に臨む。					
留意事項(持参品等)		演習時には白衣ナースシューズ他規定どうりの身だしなみを整える。					
授業計画(授業内容)		第1回	治療・検査にかかわる技術				
			1)診療時の看護				
			2)検体・生体検査の介助、医療機器の実際				
		第2.3回	治療・処置における看護				
			1)創傷管理技術、包帯法				
		第4回	与薬における看護の意義と原則				
		第5回	与薬における看護				
			1)与薬における看護の意義と役割				
			2)与薬の適応と原則				
		第6回	【講義】注射に必要な知識と技術				
		第7回	【技術演習】注射の技術① 薬剤調整・点滴静脈内注射				
		第8回	【技術演習】注射の技術② 皮下注射・筋肉内注射				
		第9回	【技術演習】注射の技術③ シリンジポンプ、輸液ポンプ				
		第10回	【技術演習】静脈血採血、針刺し事故の防止・対応				
		第11回	【技術演習】呼吸・循環を整える援助				
	体温調節、酸素吸入療法、口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引等						
	第12回 【講義・演習】生命の危機状態の援助技術(BLS・ALSの実際)						
	第13.14回 【シミュレーション演習】輸血後ショック時の看護						
	第15回 【講義・演習】死の看取りの援助とグリーフケア						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域と暮らし				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		守屋 君子					
授業目的		地域の中で人々が支え合って生きていることの実際とその重要性を学ぶ。					
到達目標		1) 地域で暮らすということの実際を知る。 2) 自分の暮らす地域を知る。 3) 地域で暮らす人々が支え合って生きていることを理解できる。 4) 地域の人々を取り巻く保健・医療・福祉を知る。					
授業の概要		フィールドワークで学校の近隣の地域の暮らしを知るとともに自分の暮らしている地域との共通性や違いを分析する。 支え合って生きていくことで暮らす人々の現状を自分の暮らしを通して理解し地域の人々との暮らしの理解につなげる。					
成績評価		試験(90%) 地域をみる(10%)					
教科書等		河原加代子他: 地域・在宅看護の基盤(医学書院) 河原加代子他: 地域・在宅看護の実践(医学書院)					
自己学習		地域の実態調査に主体的に取り組み、課題提出をする。地域の人々と関わる時は、礼節をわきまえた行動に留意する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	暮らしの捉え方				
		第2回	自分の暮らす地域の実態				
		第3回	地域で暮らす人々				
		第4回	支え合って生きること、地域共生社会				
		第5.6回	災害と暮らし				
		第7回	地域・在宅看護の対象と保健・医療・福祉、				
		第8回	まとめ・試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学概論				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		朝日奈沙妃					
授業目的		成人期にある人々の特徴を理解し、保健活動及び健康段階に応じた基本的な看護について学ぶ。					
到達目標		1) 成人期にある人々の生活と健康を理解する 2) 成人期にある人々の健康に影響を及ぼす要因と健康問題について理解する 3) 成人期にある人々の疾病予防・健康増進に係るシステムとそこでの看護の役割を理解する 4) 成人期にある人々についての理解と看護アプローチを考えるための理論の活用法を学ぶ					
授業の概要		成人期にある人々の健康に影響を及ぼす要因及び疾病予防・健康増進にかかわる保健活動について学ぶ。ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方及び方法を学ぶ。					
成績評価		定期試験・レポート・小テスト(100%)					
教科書等		小松浩子他: 成人看護学[1] 成人看護学総論(医学書院) 国民衛生の動向 2024/2025(厚生労働統計協会) 黒田裕子: 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研) 手島恵: 看護職の基本的責務(日本看護協会出版会)					
自己学習		・講義をしっかりと聞く。 ・不明な点などは、授業中・後に質問して理解しておく。 ・講義前の予習・後の復習をしておく。					
留意事項(持参品等)		指定された資料・レポート提出物等は期限厳守のこと					
授業計画(授業内容)		第1回	1.成人と生活				
			1) 対象の理解: おとなであること				
			生涯発達の特徴、各発達段階の特徴				
			発達理論: エリクソン・ハヴィガースト・レビンソン				
		第2回	1.成人と生活				
			2.生活と健康				
			1) 成人を取り巻く環境と生活の状況				
		第3.4回	2) 成人の健康の状況				
			・生と死の動向・健康格差・職業性疾病・業務上疾病				
			・受療状況・生活習慣病・メンタルヘルスと自殺者数				
			3) 保健指導(個人の主体的な健康づくりのための支援)のテーマ				
			①禁煙 ②栄養・食生活 ③身体活動・運動				
			④休養・心の健康づくり ⑤性感染症 ⑥歯の健康				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人看護学概論				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		朝日奈 沙妃					
授業計画(授業内容)	第5回	1.生活と健康					
		3)生活と健康をまもり育むシステム					
		・健康日本21と健康増進法・新健康フロンティア戦略					
		・医療法の改正・21世紀の医療提供体・ノーマライゼーション					
	第6回	1.成人への看護アプローチの基本					
		1)大人の学習:アンドラゴジー エンパワースメント					
		2)行動変容ステージモデル					
		3)セルフケア理論					
	第7回	1.ヘルスプロモーションと看護					
		2.保健・医療・福祉システム					
		3.生活習慣病と健康的な生活習慣の支援					
	第8回	1.健康を脅かす要因と看護					
		1)ライフスタイルと健康問題					
		2)ストレスと健康生活					
		・ストレス理論(セリエ、ラザルス)・ストレスコーピング理論					
		3)生活行動がもたらす健康問題とその予防					
		・健康成立のモデル・ストレスコーピング理論の実際					
	第9回	1.生活行動がもたらす健康問題とその予防					
		就業・労働形態の変化、飲酒、喫煙、運動不足、肥満					
		生活環境衛生、感染症、引きこもり、うつ、ネット依存					
	第10回	成人の健康レベルと看護の役割と中範囲理論					
		1.急性期とは					
		1)急性期の看護					
		2)危機理論(アギュラとメズイック、フィンク)					
	第11回	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援					
		(第3章:意思決定支援、家族支援を含む)					
	第12回	1.保健指導の実際(5G)					
	第13回	1.保健指導の実際(6G)					
	第14回	2.慢性期とは					
		1)慢性期の看護、病みの軌跡					
		3.障害とリハビリテーション(回復期)					
		1)回復期の看護、コーンの「障害による心理過程」					
		終末期の看護					
		1)キューブラ・ロスの「死にゆく過程」					
		新たな治療、先端医療と看護(看護実践における倫理的判断を含む)					
	第15回	試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		老年看護学概論				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		丸山 宏修					
授業目的		人の「老い」の概念に基づいて、老年期の特徴を学び、老年看護の基本的姿勢を理解する。 また、高齢社会の健康生活を巡る動向と課題を理解する。					
到達目標		1) 老年看護の基本的姿勢が理解できる。 2) 老いのプロセスが理解できる。 3) 高齢社会の現状と課題が理解できる。 4) 老年看護の役割が理解できる。					
授業の概要		老年看護の概念と、高齢社会における保健医療福祉の動向を学修し、老年看護の役割や責務など、老年看護の基本的姿勢を理解する。					
成績評価		定期試験(100%)の総合評価とする。					
教科書等		北川公子他: 老年看護学(医学書院) 鳥羽研二他: 老年看護 病態・疾患論(医学書院)					
自己学習		授業内容の復習や高齢者との会話をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～8回 1. 高齢者の理解と基本となる概念					
		老いるということ・老いを生きること					
		2. 高齢社会における保健医療福祉の動向と課題					
		3. 高齢者への看護の機能と役割					
		4. 高齢者体験					
		5. 老年看護における倫理的課題					
		6. 老年看護に活用できる理論					
		7. 試験					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護マネジメントとキャリア論Ⅰ (看護職とキャリア)				専門分野	
学年	1年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		川原 順子					
授業目的		1.社会人としての自己像を明確にする。 2.看護実践者となるために必要な基本的知識・技術・態度について学び、看護職者としてのキャリア形成について具体的に考える。					
到達目標		1)社会人基礎力について理解できる。 2)自己概念について理解し、課題と目標を考えることができる。 3)看護職者が働く場と求められる責任について考えることができる。 4)自分のキャリアプランを立てることができる。					
授業の概要		「社会人としての常識を持ち、自ら考え実践できる人となる」ことを目標に、自分が選択した看護職と自分の適性とが合致しているのかを考える。 その過程で、看護職者になることを目標に学習するための基本的知識やコミュニケーションスキルをグループワーク等で見極めるとともに自らの課題を見出し受け入れる。					
成績評価		授業態度・グループワークへの参加度(40%) レポート(30%) その他(授業振り返りプリント)(30%)					
教科書等							
自己学習		課題には真摯に取り組み、自らが誠実に行動しようと心がけて授業に取り組みましょう。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	本授業の概要・目的(授業振り返りシートの書き方) 社会人基礎力について				
		第2回	看護職者の働く場と求められる能力と責任について 1)働く場に応じた、求められる能力 2)キャリア形成				
		第3回	自己概念について				
		第4回	非言語的・言語的コミュニケーション				
		第5～7回	グループワークの意義と方法について(KJ法・討議法)				
		第8回	自己の課題と具体的な目標設定(ポートフォリオ)				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		基礎看護学実習Ⅰ (療養環境・対象理解・日常生活援助)				専門分野	
学年	1年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	60時間
担当教員		茶木 五月					
授業目的		医療施設及び福祉施設における対象者を取り巻く療養環境を理解し、基礎看護技術を実践する基礎能力を養う。					
到達目標		1)対象者の生活を取り巻く環境及び生活状況が理解できる。 2)原理原則に基づいた基本技術が実践できる。 3)対象者に応じた日常生活の援助が実施できる。 4)看護師として基本的態度を身につけることができる。					
授業の概要		地域の在宅訪問と施設見学を行う。各実習前にはオリエンテーションを行い、実習目的・目標、実習方法・内容等について理解する。 コミュニケーションや観察を通して対象と対象の生活の理解をし、対象者への関わり、援助を通して相手を尊重した態度や学習する姿勢が身につくよう学修する。					
成績評価		全出席とする。 実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		事前学習したものを復習しておく。特に技術的なものを確認する。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照する。					
実習計画		1.基礎看護学実習Ⅰ-1 医療等の現場を知り、生活環境を理解する。 対象者とのコミュニケーションができる。					
		1)病院実習を6時間行う					
		2)福祉施設実習を4時間行う					
		2.基礎看護学実習Ⅰ-2で基本的技術の実践及び日常生活援助の実践 を通して、看護を行う上での基礎的能力を養う。					
		実習で人と関わる姿勢や態度を学ぶ。					
		1)病院実習を行う。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域・在宅看護論実習Ⅰ (地域と暮らし)				専門分野	
学年	1年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		守屋 君子					
授業目的		地域で生活している住民を対象に暮らしぶりや介護予防、健康増進活動等の実際について学ぶ。 また、地域で暮らしている対象が、活用・利用している社会制度やサポートについて学習する。					
到達目標		1)地域で生活する人々の健康の保持・増進のために実践されている施策、事業や活動の方法について説明できる。 2)地域で生活する人々の「暮らし」が健康に与える影響を理解する。 3)地域の人々を取り巻く保健・医療・福祉を知る。					
授業の概要		地域にどんな人々が暮らしているのか、どのような健康課題があるのか、それらの健康課題がどのように解決されているのかなど、地域における看護職の活動の場の広がりや、地域住民の生活の営みと健康の関連を学ぶ。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照					
授業計画(授業内容)		1. 肢体不自由児・者、発達障がい児、重症心身障がい児者への医療福祉施設サービスを提供する複合施設の役割が理解できる。					
		2. 社会福祉協議会の活動を学び、地域の福祉活動の役割が理解できる。					
		3. 地域の交流館での活動を学び地域での役割が理解できる。					
		4. 保健所の活動と地域での役割が理解できる。					
		5. 認知症サポーター養成講座を受講し認知症について正しい知識と理解を持つ。又、地域の中で学んだ知識を生かせるように活動する。					